

付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

付着生物のラーバ(浮遊幼生)調査は、平成26年度4月から久栗坂、川内の実験漁場で行っています。25年度調査からの経過を含めて、その結果をお知らせします。

1 25年10月～26年9月までのラーバの出現と付着状況

(1) ユウレイボヤ

ユウレイボヤラーバ出現数の推移は西湾が図1、東湾が図2のとおりです。

25年10月～26年2月にかけて出現したラーバが養殖施設に付着し、5月にかけて成長したユウレイボヤとなりました。その後、6～7月に発生したラーバが7月から現在にかけて付着していることが確認されており、これらが成長・成熟後に発生するラーバが養殖施設に付着し、27年春にかけて成長したユウレイボヤになると思われます。

(2) ネンエキボヤ

ネンエキボヤは8月下旬から付着が見られています。他のホヤ類が海中に受精卵を出し、2、3日かけてラーバとなるのとは違い、完全なラーバになってから体外に放出し短時間で付着するため、調査ではラーバが見られませんでした。しかし、放出時期になるとネンエキボヤの体内に放出前のラーバが見えることや飼育試験結果から、漁場のネンエキボヤを観察することで付着時期がある程度推定出来ると思われます。

(3) オベリア類(通称「クサ」)

オベリア類の発生の指標となるクラゲの出現数の推移は西湾が図3、東湾が図4のとおりです。

25年12月～26年1月にかけてクラゲが出現した後にオベリア(クサ)の付着が確認され、春まで付着・成長が続きました。

3月～6月にも同じようなクラゲが見られ、その後9月にかけてオベリア(クサ)の付着が見られましたが、その大きさは数cm以下のもので、違う種のオベリアと思われます(東北大学浅虫研究センターによると、陸奥湾では3種のオベリアクラゲが春、秋、冬に見られるとのこと)。

よって、これから冬にかけて出現するオベリアクラゲを主に調査して行く予定です。

2 今後の見込み

ユウレイボヤとネンエキボヤのラーバは、水温15℃～20℃位で発生することがわかってきていますので、中層の水温が20℃以下になる10月中旬頃から、新たな付着が始まるものと考えられます。オベリア類(クサ)のクラゲの出現は11月以降と思われます。

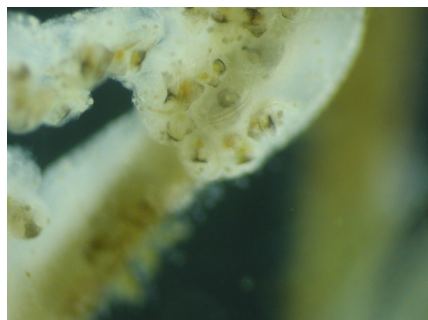
10月からは25年度と同じ湾内6点で調査し、月2回情報を発行します(次回は10月下旬の予定)。



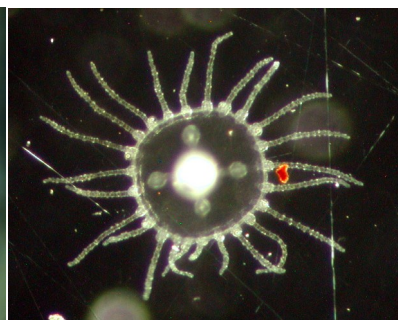
ユウレイボヤのラーバ(1.2mm)



ネンエキボヤのラーバ(1.5mm)



ラーバが出る直前のネンエキボヤ



オベリア類のクラゲ(1mm)

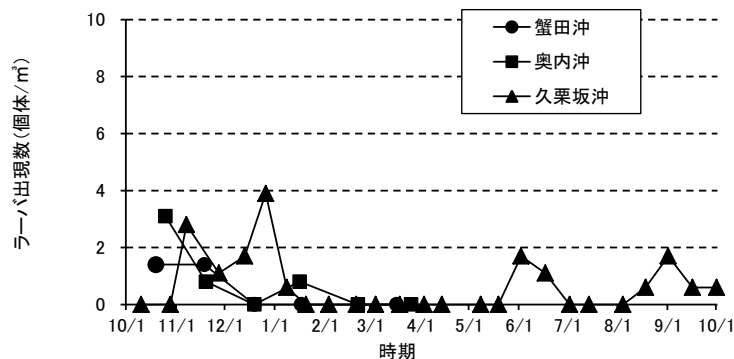


図1 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(西湾)

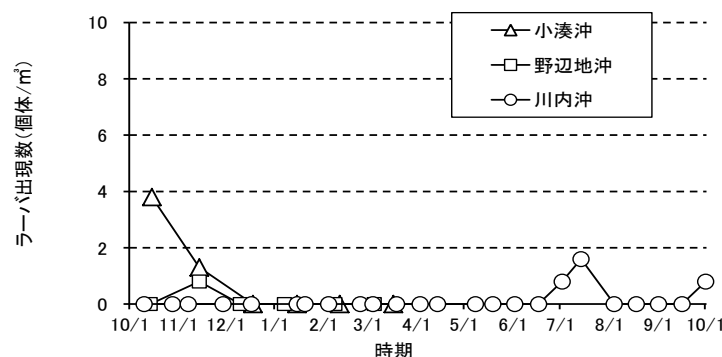


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(東湾)

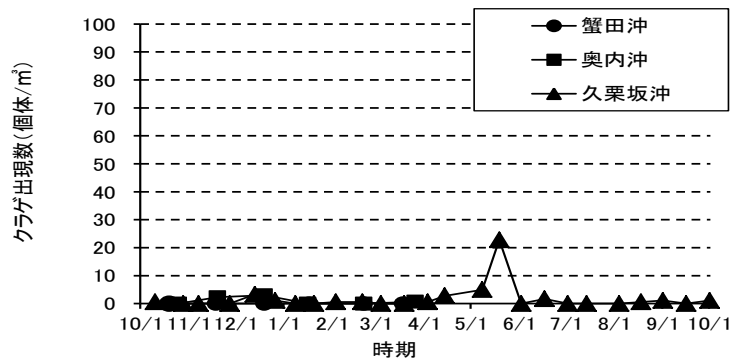


図3 オベリア類クラゲ出現数の推移(西湾)

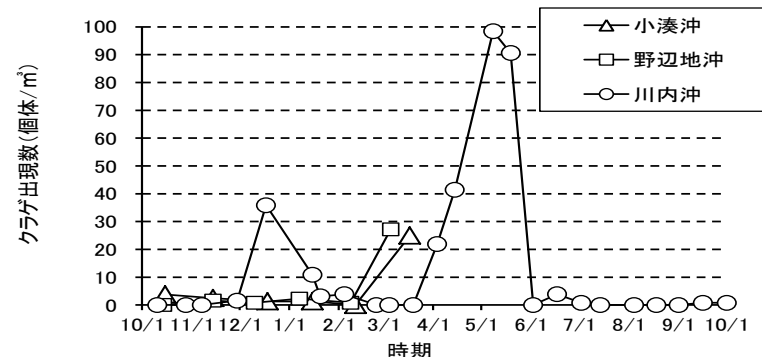


図4 オベリア類クラゲ出現数の推移(東湾)



①



②